令和３年５月２８日　北海道新聞
（朝刊/３面/総合・ひと）
本学OB　斎藤博之氏の記事

ひと 2021

障害者らを支援する札幌の教会の牧師

斎藤（さいとう）　博之（ひろゆき）さん

一念発起して通信課程で牧師資格を取得し、2019年4月、札幌市西区にプロテスタント系のホープ札幌教会を設立。精神・知的障害者ら十数人が通う。教会の事務用長机はパイプ椅子で、賛美歌はアフリカ太鼓に合わせて歌い踊る。らしくないのは「居場所をつくってあげたかったが、普通の教会では居心地が悪そうだったから」。

札幌南高、小樽商大を経て道信漁連に入り、経営企画部長まで務めた。転機は52歳。息子2人を大学へ送り出し、「この後、何のために生きるのか」との思いが湧き起こり、早期退職した。妻と放浪したカナダでプロテスタント教会の日本人牧師と知り合い、信仰の道に入った。

09年から、札幌市内で困窮家庭から相談を受けるNPO法人や、精神、知的障害者の就労継続支援B型事業所を運営。中でも放置自転車の修理・販売事業は好調で、昨年度は1355台を売り上げた。障害者約30人が働き、1台6千円台から取りそろえる。

昨年11月からは教会で、新型コロナウイルスの影響で困窮したひとり親家庭など向けに、無償で弁当を提供。信者らが手伝って毎月2回計60食を用意すると、子どもたちが集まる。知的障害のある信者の一人で、母親から育児放棄（ネグレクト）を受けた経験がある30代女性が手伝いながら「家族ができたよう」と笑顔で話してくれたのが、何よりうれしかった。

自身も昨年夏に心臓にペースメーカーを埋め、障害者1級に。「神は私に計画をお持ちだ。障害者のために働きなさいと」。69歳。

（長谷川善威）

令和３年５月３０日　読売新聞
（朝刊/２１面/道総合）
上川大雪酒造ゼミについて

経営のリアル伝えるゼミ

上川町の酒蔵「上川大雪酒造」の親会社「緑丘工房」（札幌市中央区）の経営陣が講師を務める「上川大雪酒造ゼミ」が、小樽商科大（小樽市）で４月に開講した＝写真＝。同社幹部が学生たちに、経営や起業、マーケティングといった、リアルなビジネスの経験や知識を伝えるのが目的だ。

小樽商科大は来年４月、帯広畜産大と北見工業大と統合する。ゼミ開講は、同社が３大学統合を支援するため、小樽商科大と包括連携協定を結び、始まった。同社の島崎憲明会長と塚原敏夫社長は小樽商科大ＯＢだ。

今年度の講義は12月まで、計７回開く。第１回の４月22日は島崎会長と塚原社長が講師となり、商社や証券会社など豊富な職歴を持つ島崎会長は、創業における「人脈」の重要性を学生に伝えた。

令和３年５月３１日　北海道新聞（朝刊/１３面/地域の話題）
多喜二関連記事

多喜二Tシャツ復刻

小樽のジーンズショップが４年ぶり

小樽ゆかりのプロレタリア作家小林多喜二（１９０３～３３年）をあしらったTシャツが今年、４年ぶりに復刻、限定発売された。小樽市中心部の梁川通りに店を構える「ジーンズショップロッキ」（稲穂４）が、市立小樽文学館を支援する小樽文学舎と協力して企画。６月に予定されていた恒例の多喜二祭が、新型コロナ禍の影響で中止に追い込まれる中、関係者は「多喜二の思いを伝えるきっかけになる」と歓迎している。（平田康人）

ロッキが復刻した小林多喜二Tシャツを掲げる平山三起子代表

「蟹工船」を引用　作品読むきっかけに

デザインは２０１７年の初回制作時と同様、多喜二の写真と作品の一節を使用。小説・蟹工船から「底の底のことになれば、うそでない、あっちの方が俺達をおッかながってるんだ。ビクビクすんな」と記した。

６月５日に市内で開催する予定だった多喜二祭に合わせて復刻されたが、祭自体は中止となった。それでもロッキの平山三起子代表(47)は「多喜二の時代から１００年たった今でも、言いたいことを言える世の中になっていないように思う。もう一度、多喜二を見直し、作品も読んでほしい」と、今月から販売を始めた。

小林多喜二祭実行委の大地巌事務局長(77)は「Tシャツを通して多喜二の存在が市民に受け止められれば歓迎すべきことだ」と話している。

サイズは男性用のS、M、Lの３種類。色は白、黒、ライトグレーなど４種類。限定50着で３４５６円。同店ホームページでも購入できる。問い合わせはロッキ☎０１３４・３４・２７０５へ。

令和３年５月２９日　北海道新聞　（朝刊/２３面/サタデーどうしん）、
本学学術研究員　高野宏康氏の記載あり

小樽の歴史 動画で学ぼう

道新文化センター統括本部次長
兼札幌道新文化
センター館長

米田　崇

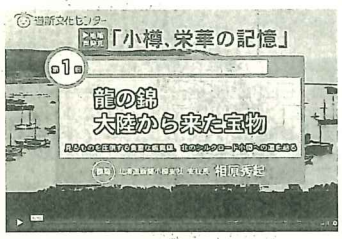
道内８都市でカルチャーセンターを展開する道新文化センター（札幌）は、いつでも視聴できる動画配信講座を提供しています。このうち「小樽、栄華の記憶」（全５回）は昨年12月の提供開始以来、視聴した受講生が100人を超え、歴史好きの人や小樽に縁のある人の間で静かな人気を呼んでいます。

動画配信講座は、インターネットにつながり、動画再生のできるパソコンやスマートフォンなどがあれば、配信期間中どこでも何度でも視聴できます。新型コロナウイルスが全国的に感染拡大する中、新たな講座メニューとして昨年、始めました。

このうち「小樽一」は「地域再発見シリーズ」の第１弾として製作。蝦夷（えぞ）錦、北前船、榎本武揚、幌内鉄道など小樽の近世以降の歴史について、地域史研究者や取材経験の豊富な道新社員らが語る内容です。講座は各回とも所要60分前後です。

動画配信講座「小樽、栄華の記憶」

	テーマ	講　師
第1回	龍の錦　大陸から来た宝物（53分）	相原秀起 （北海道新聞社小樽支社長）
第2回	小樽の栄華と北前船 ～海でつながる人・モノ・文化～（70分）	高野宏康 （小樽商大学術研究員）
第3回	榎本武揚が小樽に描いた夢（55分）	合田一道 （ノンフィクション作家）
第4回	近代化を運んだ港　小樽港のはじまり（70分）	石川直章 （小樽市総合博物館長）
第5回	幌内鉄道を築いたエリートたち（71分）	駒木定正 （北海道職業能力開発大学校特別顧問）



動画配信講座「小樽、栄華の記憶」のタイトル画面

受講料は全５回分で６千円（どうしん電子版会員、北海道新聞パスポート会員は５千円）。払込用紙をお送りしますのでコンビニエンスストアからお支払いいただきます。前月に申し込み、１カ月間視聴できる仕組みです。６月に視聴するには５月中に申し込む必要があります。

道新文化センターのホームページ（ＨＰ、https://doshin-cc.com/）の「キーワードで講座を探す」で「動画配信講座」と打ち込んで講座を選びます。「講座を予約する」へ進んで画面に氏名やメールアドレスなどを入力して申し込んでください。

ＨＰでは、無料視聴できる25分の動画「シリーズガイダンス＆小樽と樺太　忘れられた繁栄の歴史」を公開しています。ぜひご覧ください。なお、地域再発見シリーズは今後、小樽に続く第２弾も製作中です。どうぞお楽しみに。

道新文化センターは1973年、道新文化教室としてスタート。現在は文学、歴史などの教養講座から料理、健康・スポーツ、手工芸、音楽、絵画、茶道や生け花に至るまで約2500の講座を運営しています。今後もさまざまな「学びと習い」の場を提供できるよう努力してまいります。問い合わせは道新文化センター☎011・241・0123へ（平日午前９時半～午後７時。緊急事態宣言期間である５月中の土、日曜は臨時休業させていただいています）。